



GINZA SIX *magazine*

A Magazine for Ginza / Tokyo Lovers

ISSUE 1

Autumn 2018

GINZA SIX と銀座で、秋休み。

G S I X

Editor's Letter

はじまりの言葉

普段は各種メディアやプロジェクトの企画編集を生業にしている私が、2017年4月のGINZA SIX開業に先駆け、ご縁あって、その一部のコンテンツのプロデュースにも関わらせていただくようになり、2年余りが経とうとしています。

そのため取材、打ち合わせ、ついでの買い物と、おそらくは誰よりもGINZA SIXに通った回数が多いことがかろうじて誇ることができるひとつであり、何度も足を運ぶうちに顔なじみとも言える各店舗の方々が増えていって、今やGINZA SIXを畏れ多くも“ご近所の商店街”とすら感じている自分がいます。

幸いなことに、GINZA SIXの通路は銀座の路地裏に着想を得てジグザグにデザインされていて、ぶらぶらするにはもってこい。そんな中で働くスタッフの皆さんにとっても、日々を過ごすGINZA SIXは日常の場であると感じるようになりました。

Yuka Okada, Editor in Chief

岡田有加

「GINZA SIXと銀座で、秋休み。」

そんな今号のテーマは、ゆえにGINZA SIXを非日常の特別な場であると同時に、身近にあって憩う存在としても捉えたものです。

工作中的のわずかな隙間に。ふと空いた休日に。通りすがりに。目的なくふらりと出かけても、自分の中の何かが休まる場所。

忙しく過ぎていく営みの中で、そうした場をどれだけ持つことができるか。人生が変容していくとき、これまでの意識や感覚に固執せず、そんな新たな場をどう開拓できるか。その先にある自分を芯から満たす時間や人々との対話そのものが、私たちが獲得しなければならぬひとつのラグジュアリーなのだろうと感じます。

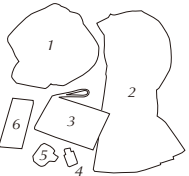
表紙には「A Magazine for Ginza/Tokyo Lovers」と記しました。銀座を、東京を、諦めることなく使命感を持って愛し駆ける読者の方々に届く、ささやかな媒体になることを願って。

最近のGINZA SIXで見つけた、私の秋休みアイテム



1. 荷物を小分けに収容するナイロン製のトラベルポーチ。中身が見えずに絶妙な透け感、持ち手があることの使い勝手の良さ……サイズ違いの5点セットは、すでに出張旅の心強い友です。グラム コンプリート トラベルキット ¥15,120 / ザ・ノース・フェイス アンリミテッド [5F] 2. 一枚羽織るだけで気分が変わる、どこかがちょびり他と違うデザインのコートが好きです。英国ブランド「マルベリー」はレザーグッズが有名ですが、GINZA SIX店ではウェアも販売。こちらはカジュアルに傾きがちなオフホワイトの麻のコートを金ボタンでドレスライクに仕上げた一着。コート ※販売終了 / マルベリー [3F] 3. スタッズの攻め感を、半円モチーフが緩和。長財布も入る使えるサイズ感が、気分転換も兼ねたハレの集いに重宝。クラッチバッグ ¥201,960 / ヴァレンティノ [B1F~4F] 4. 季節が変わると香りを新調して、少しでも新しい自分を感じたいもの。この秋は女性を主張しすぎず背伸びしなくていい、「メゾン フ

ランシス クルジャン」の「アクア セレスティア オードトワレ」のようなユニセックスな香りが私的気分です。オードトワレ ¥22,140 / サロン デ パルフム [B1F] 5. 都会での長いマンション暮らしの反動からか、本の雑貨を見つけると手に取ってしまいます。鹿児島を拠点に木工作家の父と二人の息子が手がける「アキヒロウドワークス」のコップは、タブノキの塊をくり抜いて作られていて、大胆な手彫りの跡に対し、唇に沿う飲み口のカーブに癒されます。コップ ¥8,100 / シボネケース [4F] 6. 童心に戻る花火。大人には少し涼しくなった秋の夜長がベストタイムなのかもしれません。福岡県みやま市で80年の歴史を持つ筒井時正玩具花火製造所のあまりに美しい線香花火セット「花」は、火の勢いをスムーズに伝える福岡・八女産の手漉き和紙を草木で染めていたり、火を点ける瞬間が今から待ち遠しい逸品。工芸や地方再生などに関心が高い方への贈り物にも最適な桐箱入りです。線香花火 ¥5,400 / 銀座 蔦屋書店 [6F]



全世界で話題沸騰のインスタグラマー、スヌーリ (@noonouri) がGINZA SIXにやって来た！ 約10万人ものフォロワーを持つ「彼女」はキュートで好奇心旺盛、ファッションから社会貢献、アート、ロックやオペラに至るまで興味津々だ。ランウェイにも度々モデルとして登場する。彼女の親はミュンヘンのデザイン事務所オビウムの創設者、アートディレクターのヨルク・スパー。「僕がこのデジタル・キャラクターを創ったのは7年前ですが、発表したのは今年2月。ファッションに関する知識・情報を、特に若い世代に楽しい方法で伝えたかった。高品質のコンテンツを大切にしています」と語る。そんな「彼女」にファッション界も注目。「今ブランドが重視しているのは“つながり”。ルイ・ヴィトン×シュプリームのコラボをはじめ、双方のイメージの交換もトレンドです」。そこにソーシャルメディアが加わることで強いイメージを伝えるスヌーリは、新しいコミュニケーションの先端なのである。

チームラボのデジタルアートの前で。ドレス ¥1,134,000・ブラ ¥162,000・ベルト ¥113,440・ハット ¥124,200・サングラス ¥50,760・ネックレス ¥77,760・ブレスレット (ミサンガ2本セット) ¥37,800・ブーツ (ヒール2cm) ¥120,960・他は参考商品 / ハウスオブディオール ギンザ [B1F~4F]

Storytelling

物語を探して

GINZA SIXの注目ギャラリーに込められたストーリーと
各ショップで見つけた物語のあるアイテムをここに

「THE CLUB」はGINZA SIX開業と同時に6Fに誕生した新しいギャラリーです。私自身もそれ以前はオークションハウスで現代美術のセールスをしていたので、キュレーターとしては新参者。だからこそ既存のギャラリーにはない自由闊達なプログラムをと、こけら落としの企画展段階から、世界的な現代アーティストであるダニエル・ビュレンのペインティングと日本を代表する白磁の陶芸家である黒田泰蔵の作品を共存させるなど、現代美術と工芸を分けることなく、新しい見せ方を提案してきました。アートの世界では作品を分野や時代ごとに捉えることが少ないですが、実際に家に住んでアートを楽しもうとするとき「部屋のちょっとした空間に組み合わせる絵を買おう」というケースもあるはず。そういう意味で「THE CLUB」では、若いコレクターのためのエントリーモデルから本気の作品までを揃え、各々のアイデンティティに合った現代美術を見つけ出す感性を発見してもらいたいと思っています。

また、アートの世界のグローバルスタンダードを踏まえた質の高い作品を届けること、日本では目にする機会が少ないアーティスト

を紹介することも、プログラムの核としています。ギャラリーの使命はコレクターのコミュニティをつくることでもあるので、「THE CLUB」を通じて作品をコレクションしていけば、海外のキュレーターやコレクターとたまたま出会っても、アートの話が通じる。そんなインターナショナルな視点でアートを見る人を創出していきたい。今「THE CLUB」のお客様は日本人だけでなく外国人も多く、ちょうど半々くらいですが、海外のゲストが頻繁に訪れ、東洋と西洋をつなぐGINZA SIXのギャラリーとして、国際色豊かなプログラムとコミュニティをつくっていききたいですね。

海外の動向を理解することは、日本のユニークネスに気づくことでもあります。アートの世界でもバーチャルリアリティが台頭し、ファッションのようにトレンドの移り変わりが早まり、ナショナルリティがなくなる一方、日本には古美術はもちろん、縄文時代まで遡ることができるルーツ、培われてきた人間の美意識がある。それは大きな財産であって、日本を感じるキュレーションにも力を入れることで海外の目を日本に向けさせたいと思っています。

Considerate

優しい私に

目的意識や危機感に裏打ちされた真の優しさとは？
他にも様々な想いを宿したGINZA SIX選抜アイテムを紹介

日本のお酒に適切な付加価値を創造し、マーケットに還元したい。それが千葉市内に両親が創業した酒屋の二代目として主に飲食店など法人向けに商売をしていた私が、個人の消費者に向けても酒販品を売るスペシャルなステージとして、GINZA SIXに「IMADEYA GINZA」を出店した大きな理由です。

いま、世界的な和食ブームにもかかわらず、日本食だけでなくお酒もまた超デフレ傾向にあります。僕は全国の造り手の仕事ぶりを見っていますが、分担があるにせよ毎朝5時に起床し、夜中も2時間置きに起きて……という繊細な仕事は、緻密な温度管理も含め、日本人にしかできない。他にも希少価値のあるお米を仕入れてトップキュベを生み出したり、自分で田んぼを持って米を作付けするとところから酒造りに取り組んでいる蔵元もありますが、ワインというテロワールや有名醸造家といった付加価値につながるレイヤーが少ないこともあり、世界的に価格が画一化してしまっています。

「IMADEYA GINZA」のカウンターの隅には角うちコーナーを設けていて、最近やっと市民権を得てきた印象ですが、販売本数が

少なく希少価値が高いお酒は一本単位で売ってしまうとすぐになくなってしまいう一方、一杯ずつなら多くの方に提供できる。プラスチックのコップで無料試飲ではなく、作家モノの酒器で提供しているのも、全て日本のお酒の価値創造のためです。また、定期的に蔵元をはじめクラフトジンなどを造り始めた若いクリエイター主催の有料イベントなども開催していて、これまでにはあまりなかった、彼らがメイド・イン・ジャパンのお酒を表現する場にもなっています。

ちなみに僕は長く海外のワインも仕入れています。フランスに行くときと産地ごとに「クルティエ」と呼ばれる、造り手が語るワインを理解し、ブランディングし、プロモートし、販売までを担う強力な仲介業者が存在します。IMADEYAも日本の造り手にとって、願わくば、クルティエのようなパートナーでありたい。少子高齢化で日本のマーケットがますますシュリンクしていく中で、地方では後継のいない造り手がすでに看板を下ろし始めています。僕にとって優しさとは危機感の裏返しであって、小売業にはまだまだできることがたくさんあると思っています。

お話を聞いた人 山下有佳子 Yukako Yamashita

「THE CLUB」マネージングディレクター。1988年生まれ。2011年より2017年までサザビーズロンドン〜ザザビーズジャパンに勤務。なお、「THE CLUB」では9月8日(土)からアメリカの女性アーティスト、ジャッキー・サコッチオのアジア初個展「Unbearable Lightness 堪えがたいほどの光」がスタート。
右/ Jackie Saccoccio, Place(Blue Speed), 2018 Courtesy of the artist and Van Doren Waxter, New York



お話を聞いた人 小倉秀一 Shuichi Ogura

IMADEYA代表取締役社長。1961年生まれ。1962年に両親が千葉市内に創業した酒屋「いまでや」二代目として、店舗名を「IMADEYA」とし、2014年以降、本社に併設した千葉本店に続き、千葉エキナカ店をオープン。築地で日本ワインに特化したレストラン「蔵衛-Kurabuu-」も経営。2018年、IMADEYA KOREAを設立。右/ 酒米の育った田んぼの環境、酒米の身分証明ができる日本酒がコンセプト、京都府松本酒造の「Shuhari ID 1314-1」。¥2,700/いまでや銀座【B2F】



GINZA SIX Discoveries

1. 土佐地方にお座敷遊びとして伝わる、飲み干すまで置けない“可壺”に着想を得た「酔独楽」。酒器 ¥37,800 (4点セット)/ディープロス【4F】 2. ブランドを象徴するアイモチーフから、鼻筋を伝って流れ落ちる涙をデザイン。イヤークラフ(18KYG×ダイヤモンド×ブルーサファイヤ) ¥280,800 (イレアナ・マクリ)/ザ・ショーケース バイ デルパン【2F】 3. 蛭型石膏埋没による青銅の鋳造により生まれた塊。振ると独特の音が。渡辺遼による作品 ¥24,840/シボネケース【4F】 4. 肌色や世代や性別を超えたカラーシリーズ「GEN」の新作。アースカラーに彩られた6色はBONFIRE(焚き火)、TRIPPIN(ぶっ飛んでいる人)などネーミングにも物語を感じて。全3種。“GEN NUDE EYESHADOW PALETTE「COPPER」” アイシャドウパレット ¥5,184/ベアミネラル【B1F】 5. 香りに包まれたライフスタイルを楽しむために生まれたフレグランス。ソープやキャンドルも揃う。全20種。“MAISON CHRISTIAN DIOR LA COLLE NOIRE” オードゥ パルファン ¥39,420 (250ml)/メゾンクリスチャン ディオール ギンザ【B1F】 6. 手首の曲線に沿う世界初のカーブしたクロノグラフムーブメント搭載。独自の262KHz振動で駆動するハイパフォーマンスクォーツムーブメントに注目。“CURV”ウォッチ(SS) ¥129,600 (ブローバ)/シチズン フラッグシップストア トウキョウ【1F】

GINZA SIX Discoveries

1. 「Just Because (ただそれだけ)」の特製リボンとメッセージカードは「特別な理由がなくても、ギフトとともにメッセージを送りませんか」という取り組みの一環。この秋の贈り物には新作「ハニーサックル & ダバナ」の香りがはじけるキャンドルを。9月7日(金)発売予定。ホームキャンドル ¥9,180/ジョー マローン ロンドン【2F】 2. “幸せなとき”を意識させるアイコンックなビザン数字を、ジャカード織りで透し模様。売り上げの一部は2016年熊本地震で被災した熊本城修復に寄付される。全3サイズ。デディベア ¥62,640 (フランク ミュラー フューチャー フォーム・25cmサイズ)/フランク ミュラー ジュネーブ【2F】 3. 越後の老舗船屋「高橋孫左衛門商店」の砂糖不使用の最高級水飴に、毎日店頭の御影石の石臼で挽く低温焙煎のやわらかなきなこをまぶした、老若男女を問わず心温まる味わい。飴 ¥2,700/菓子匠 末広庵【B2F】 4. ほおづきをイメージしたロングセラーの「たねほおずき(もり)」。テント内のルームライトはもちろん、屋外散策の足を優しく照らすお伴に。全3色。LEDライト ¥4,104/スノーピーク モバイル【5F】 5. 中川政七商店内で展開中のこの秋デビューしたお茶ブランド「茶論 見世」。茶道具箱に一式を取めることで、より日常のお茶を愉しんで。茶道具セット ¥91,044 (茶論 見世)/中川政七商店【4F】

2. FRANCK MULLER GENEVE



1. JO MALONE LONDON



4. SNOW PEAK MOBILE



5. NAKAGAWA MASASHICHI SHOTEN



3. KASHISHOU SUEHIROAN

「勝負の日」というものがある。仕事やデート？ それもある。でも一般論ではなくて、自分だけにしかわからない勝負。心の蓋を取り外して誰かに本音を話す、育ててきた価値観を手放す、ダメな自分を受け入れる。他人から見れば、些細でちっぽけなことだとしても、自分にとっては人生かけた大勝負の瞬間。そんなとき、お気に入りのファッション小物と一緒に、なぜだか心強い。そこには理屈を超えた「好き」が蔵存しており、それはお守りのように、前へ向く手助けをしてくれる。おしゃれを愛する女性ならではの特権だ。

Feature Story _ 1

FASHION for the SOUL

心に効くファッション



バッグ“GATE SMALL TWEED BAG”〈高さ19×幅20×マチ11.5cm〉¥206,280・キーチャーム“BUNNY CHARMS”¥58,320・ポシェット“GATE POCHETTE”〈高さ10.5×幅21×マチ2.7cm〉¥128,520／ロエベ【1F】

日々、持ち変えるものではない。気軽にぼんぼん買えるものでもない。だから、バッグには使う人の、大きさに言えば本質のようなものがあらわれてしまう。機能重視か、見た目重視か。できるだけたくさん所有したいか、ひとつをとことん使い込みたいか。まるで魔法のように必要なものがいつもバッグから出てくる人もいれば、極力、背負う荷物を少なくしたい人もいる。端正で男前なトート型、アクセサリ感覚で持つ愛らしいポシェット、肩の力を抜いた布バッグ、軽快なりゅっサック……。今の私はどんな私？ になりたい私はどんな私？



バッグ“BIG BAG SUPPLE GRAINED CALFSKIN SMALL LONG STRAP”〈高さ26×幅24×マチ22cm〉¥340,200／シリーズ【1F,2F】



ファッションと真面目に向き合いすぎて失敗するのも、逆に軽んじるのもいやだ。「たかが服、されど服」くらいがちょうどいい。半年に一度、コレクションを披露しているメゾンブランドの新作にはいつも「今」が詰まっている。色、デザイン、ディテール、フォルムと表現を様々な、時代を反映するなにかを吹き込んでいる。袖を通せば、着て鏡の前に立てば「今」を纏った自分にワクワクする。“されど服”の重みをずっしり感じるのがうれしい。試着室を出たら次は自分らしく、日常で、街で。等身大で楽しもう。それが現代のモード・ファッション。

コート ¥397,440・パンプス ¥135,000〈ヒール10.5cm〉／メゾン マルジェラ【3F】



老舗ブランドだからこそその安心感が好きだ。長きにわたりその製品を愛し、真摯に探求し、改良を重ねてきた本物。人はその「確かなことやもの」に価値を見出して、愛する。一方で、混沌とした時代に、多様性や他者との違いを許容して「今はこんな気分だと思う。どうかな？」と語りかける、トレンド発信型のブランドも好きだ。人はそれに同意し、選択し、消費することで世の中に自分の意志を還元する。前者ならブルーやグリーンの色を取り入れた老舗ブランドのアイコンバッグ、後者ならレインボーのトートバッグを。どちらも正解でどちらも真実。

左：バッグ“TEMPÊTE”〈高さ21×幅28×マチ11cm〉¥682,560／デルヴォー【2F】 中：バッグ“REJANE”〈高さ18.5×幅26×マチ10cm〉 ¥622,080／モワナ メゾン【1F】
右：バッグ“MULTI STRIPES TOTE MINI”〈高さ21×幅20×マチ10cm〉 ¥95,040／アニヤ・ハインドマーチ【2F】

「素敵な靴はあなたを素敵な場所へ連れて行ってくれる」。出処は実はよく分かっていないが、「おしゃれは足元から！」が信念の靴好きの女性にとって、それは散財に対する絶好の言い訳。華奢なヒールに光を放つスパンコール、心まで軽くなるふわふわのファー、乙女心を刺激するピンク。いつもの道をほんの少し自信を持って歩けそう、昨日とは違う自分で進めそう、それは靴の持つ小さな魔法だ。ここで、どこかで聞いた格言をもうひとつ。「落ち込んで下を向いたとき、目に入る靴が素敵なら顔を上げられる」。だから、この秋は、靴を買おう。



左：サンダル“SR MILANO” ¥135,000〈ヒール10.5cm〉／セルジオ ロッシ【2F】 中：シューズ“HAMELIA” ¥110,160／パリー 【2F】
右：サンダル“MAYSALE JEWEL” ¥164,160〈ヒール7cm〉／マノロ ブラニク【2F】

シンプルは強い。ストレートに、人の心に響くから。だけど、装いにおいては少し違う。人から見れば複雑なことや無駄なことが、魅力につながることもある。透ける素材のシャツを着こなすことで大胆になれる。カラフルな花柄を見ると元気になれる。歩くたびに大きく揺れるフリルで女性らしさが倍増する。ニットの深い森のような緑色が落ち着く。そんなふうにはまずは自分のために洋服を、デザインを選ぼう。そうじゃないと本当の魅力は生み出せない。ごまかしたって届かない。好きな自分を、好きな人が魅力的だと思ってくれることが幸せ。



左上：シャツ¥39,960／コスチュームナショナル【3F】 右上：ワンピース¥181,440／3.1 フィリップ リム【3F】
左下：ワンピース¥59,400／シーバイクロエ【3F】 右下：ニット¥74,520／エムエム6 メゾン マルジェラ【3F】

ドレスアップよりもカジュアルダウンのほうが、数段、難しい。力を抜きすぎるとなんだかだらしない。若作りしているように見えてしまうことだってある。だから、歳を重ねるごとに難しくなっていく。「大人のカジュアル」の定義とは？ その1、無理なく動きやすいこと。その2、素材がしっかりしていること、チープに見えないこと。その3、誰かの真似ではないこと、着られてしまわないこと。そんな服を手に入れたなら、銀座に出てみよう。大人の街でじっくり馴染んでいると感じたら、自分流のカジュアルダウンに太鼓判を！



希少性にファッションの価値を見出して、“something special”な買い物をしたい。それならば、まずセレクトショップに足を運んでみよう。例えばこのパープルのドレス、真っ白のトートバッグのように、その店だけでしか買うことができないブランドや特別に作ってもらった別注カラーなど、いわゆる“限定品”を見つけることができる。そこにはブランドと消費者を繋ぐバイヤーの想いがぎゅと詰まっている。人とは違う個性的なものが手っ取り早く見つかることをポジティブにとらまえて、手に入るハッピーはきっと大きい。

ダウンコート ¥232,200／ヘルノ【3F】 ニット ¥251,640／ファビアナ フィリッピ【3F】 シャツ ¥32,400／バイ マレーネ ビルガー【3F】

ドレス ¥45,360／レリタージュ マルティニーク【4F】
バッグ“TENT WEEKENDER”〈高さ32×幅40×マチ20cm〉¥27,000 (ティディデイ アンド オーガスト)／シジェーム ギンザ【2F】



Feature Story _2

*Lux and
Essential*

リュクスとエッセンシャルの絆



左ページ：エッセンシャルとは、直訳すると本質、絶対的に欠かせないさま。そんなおしゃれの真髄を、GINZA SIXのリュクスなブランドから探求したい。例えば女性が普遍的に愛する花をいつもどこかに。ヴァン クリーフ & アーベルのアイコン的な「ヴィンテージ アルハンブラ」リングを指先でキラリと咲かせて。人差し指のリング「VINTAGE ALHAMBRA RING」(PG×ダイヤモンド) ¥734,400・中指のリング上から〈WG×ダイヤモンド×ホワイト マザーオブパール〉¥405,000・〈YG×ダイヤモンド〉¥405,000・薬指のリング〈YG×ダイヤモンド×カーネリアン〉¥426,600／ヴァン クリーフ & アーベル【B1F～2F】ブラウス¥31,320／エプール【4F】
右ページ：モードな装いに身を包み、美しいスイーツを堪能。「ハウス オブ ディオール ギンザ」4F、「カフェ ディオール バイ ビエール・エルメ」の「バシュラン ローズ、フランボワーズ、ライチ」をそっと一口。そこにはパリのエスプリの最先端がある。ドレス¥572,400・ブリーツスカート¥421,200・バッグ“LADY DIOR”〈高さ20×幅24×マチ11cm〉¥1,015,200・ブーツ〈ヒール8.5cm〉¥301,320・チョーカー“J'ADIOR” ¥61,560・ハット¥124,200(ディオール)／ハウス オブ ディオール ギンザ【B1F～4F】



遊び心を大切にした着こなしで街へ出る。フェンディの愛らしい白襟がついたケープ型のドレスに、トレンド真っ只中の「FFロゴ」のハンドバッグ&サイハイブーツ。ロゴをシックに着る、これぞ本当のリクスを知る女性の証。ケープドレス ¥390,960・ブーツ〈ヒール10cm〉 ¥199,800・バッグ “MINI PEEKABOO” 〈高さ18×幅23×マチ11cm〉 ¥489,240／フェンディ 【B1F～3F】



永遠の定番色、黒と向き合う。サンローランのレザージャケットが主役のオールブラックスタイルはハンサムでパワフル。素足を大胆に出せば、どこかリラックスした装いに。ジャケット ¥745,200・シャツ ¥124,200・パンツ ¥299,160・ブーツ〈ヒール10.5cm〉 ¥199,800・ベルト ¥48,600・グローブ ¥97,200・イヤリング ¥59,400 (サンローラン バイアンソニー・ヴァカレロ)／サンローラン 【B1F～2F】



左ページ：ダイヤモンドとゴールドというジュエリーの黄金コンビを日常で楽しみたい。曲線美がエレガントなフレッドの「8°0（エイト デグリー ゼロ）」コレクションは、永遠や無限のシンボルを連想させるデザイン。ほっと一息つく休日に輝きを添えて。リング〈PG×ダイヤモンド〉¥558,900・プレスレット上から〈PG×ダイヤモンド×リンクチェーン〉¥1,458,000・〈PG×レザーケーブル〉¥345,600／フレッド【1F】 トップス¥36,720（ルーム・エイト）／ビームス ハウス ウィメン 【4F】

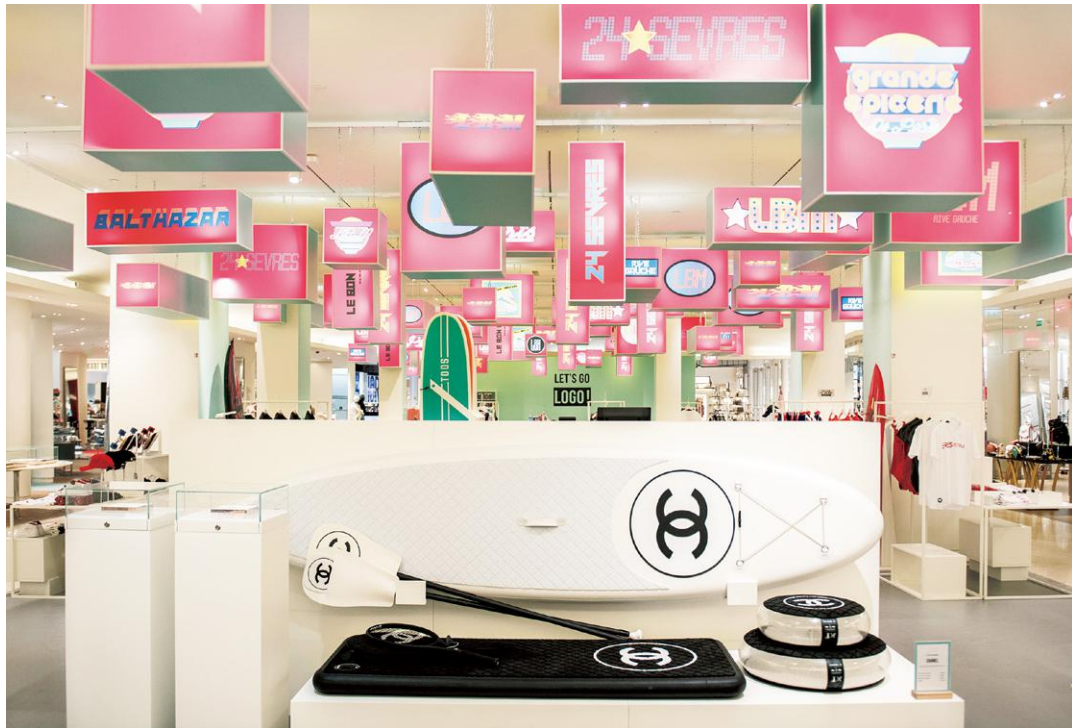
右ページ：ときには思いきりドレスアップして、高揚感を味わう。GINZA SIXのストア内に並ぶヴァレンティノの数々のドレス。この秋に選びたいのはミニマルなベアトップドレスのようなジャンプスーツ。そんなヴァレンティノ流の洒落たエレガンスに夢中。ドレスジャンプスーツ¥681,480（ヴァレンティノ）・イヤリング¥32,400（ヴァレンティノ ガラヴァーニ）／ヴァレンティノ【B1F～4F】



Case Study

創造は学びから

世界に商業施設は数あれど、パリのボン・マルシェが次々と打ち出す企画展が傑出している
ここではその成功の鍵を探ってみたい



1. 今年2月24日～4月1日に開催された「Let's go Logo」展。地上階では130ブランドによるカプセルコレクションを販売。2Fは「ローラ・ジェームス・ハーバー」によるホテル・ロビーのインスタレーション、3Fは「オフ・ホワイト」がイメージしたパリの広場で、限定品を多数販売した。2. 19世紀半ばも今も同じ場所にあるボン・マルシェ。アストリッド・ブシコーによる世界初のデパートだ。エミール・ゾラはボン・マルシェをモデルにした小説の中で“消費者のための消費のカテドラル”と表現した。3. エロディー・アブリアル。4. フレデリック・ボデネス。

1

思いがけないことが待っている場所

いつ行っても心浮き立つ場所。それがパリ左岸のデパート、ボン・マルシェである。他の商業施設より抜きん出たワクワク感の理由は、次々と催される期間限定の企画展だ。それはエクスポジションとポップアップ（POP-UP）の2種に大別される。後者が小規模で商品寄りなのに対し、前者はデパート全体を使うこともあり、モードもインテリアも食品も、というように部門分割の仕切りを取り払っての大規模な催しである。

「店内を森だとイメージしてください。売り場の商品というしっかり根付いた森があります。森は季節で色が変わります。その季節ごとの色を、エクスポジションを介して伝えようとしているのです。以前もエクスポジションは開催していまし

たが、今のように盛んになったのは5年くらい前からでしょうか。競争の激しい世界です。大規模なイベントを前面に押し出し、それをマスコミによって世間に伝えるのがいいだろうと。」

こう語るのはエクスポジションの総括者で、イメージ・ディレクター、アート・ディレクターという肩書きを持つフレデリック・ボデネス。次のようなリズムで1年間に7つ開催される。アート展に始まり、モード関連展、ゲスト展、トレンド展、そして観光客を意識した夏展と続き、バカンス明けに国か都市の展覧会、そして締めはクリスマス。館内にはそのためのスペースが設けられている。

「他の商業施設でも企画展は開催されていますが、それとは異なることをしよう



2

3 4

という意欲、そして戦略がうちにはあります。最初から最後まで内部のスタッフが担当し、世間に伝え、ストーリーを語り、館内を演出するのです。」

1年7つのエクスポジションの内容は、社長を含むマーケティング委員会で前年の6月に決定される。商品があるのは当たり前前のデパートにおいて、思いがけない経験を来館者に提供することをエクスポジションは優先。9月1日から館内の3フロアで始まるLA展を例にとると、テーマ別の商品販売に加え、ヨガ教室もあれば地上階には巨大なスケートパークも。盛り沢山の話題があるので、メディアはエクスポジションごとに取り上げるになり、それで過去にボン・マルシェに足を運んだことのない人も興味をそられてやって来る。他では出来ない体験ができる場で働いてみたい！と、メディアの露出は求人にも、良い効果があるそうだ。話題となるエクスポジションに関わることを従業員は誇りに思うので、彼らの士気高揚にもつながっている。

ボデネスが強調するのは、商業施設といえどボン・マルシェは単に商売の場ではないことだ。年頭のアート展では商品の販売はゼロ。しかもインスタレーションの見学は無料。来館者への贈り物であり、夢を分かち合うのが企画者の喜びだという。思いがけないことが待っている場

所。それは1852年の創業者アストリッド・ブシコーが、すでに実行していた。館内でコンサートや現代絵画展を開催し、読書室を設けるなど、商売を超えた文化的な戦略で彼は他のデパートに差を付けていたのだ。

では、エクスポジションに比べ、商売色が強いというポップアップについて見てみよう。ローカル客が多いデパートなので、常にサプライズを！ということから、2015年の大改装の際に、そのためのスペースが館内8カ所に確保された。メゾン、小物……と部門別の担当者によってブランド切りで進められる。レディース・ブレタ部門ディレクターのエロディー・アブリアルによると、ポップアップはボン・マルシェが扱うブランドの中から選び、期間限定品やカプセル・コレクションなどを交えてその世界観を見せる機会なのだという。ブランドが買い物客に認知され、その後の売りがアップし、さらにデパートとブランドとの関係がより強まるメリットも。またポップアップもメディアの紹介により、新しい客層を迎えるチャンスにもなっている。

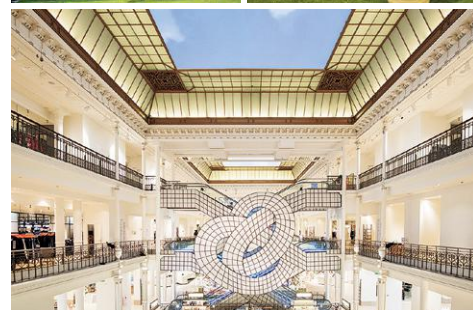
「今年はポップアップの開催が30～40とアクティブです。他の商業施設に比べて小規模ゆえの敏捷性で、畳み掛けるように新しい発見を提案できる。これがボン・マルシェの強みといえますね。」



5



6 7



8

5. 2014年秋に開催された日本展では、直島の魅力を大勢のフランス人が知ることになった。6.7. 今年の春のゲスト展は歌手ストロマエと仲間によるブランド「モザール」。ボン・マルシェが提案した工場案を彼らが気に入り、“Mosart Factory”とタイトルされて地上階に工場風インスタレーションの売り場が登場。オープニングにはショーも開催された。8. 今年のアート展。レアンドロ・エルリッヒがエレベーターにも、ガラス屋根にもインスタレーション。

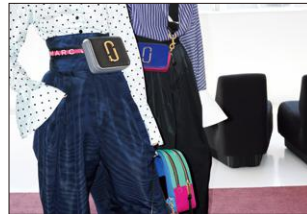
GINZA SIX POP-UP Info

GINZA SIXの各フロアに設けられているPOP-UPスペース
この秋は下記の企画がラインナップ！



Closet by Japan creators
【4F】

日本のクリエイターにフォーカスし、「LOKI THO（ロキト）」「ayame（アヤーム）」「MID DLA（ミドラ）」「INPROCESS（インプロセス）」を展開。週ごとにブランドやミュージシャンにクローズアップしたコラボ商品なども紹介。8月28日(火)～9月25日(火)まで。



MARC JACOBS
【3F】

ブランドのアイコンであるダブル「J」ロゴが特徴的な人気のバッグ「SNAPSHOT」をはじめ、2018年秋の新作バッグや小物を中心に、マーク・ジェイクソプの世界観を伝えるアイテムの数々が一挙勢ぞろい。8月28日(火)～9月25日(火)まで。



LOLA'S APARTMENT
【B1F】

自身の感性を大切にする大人の女性に向けたライフスタイルショップ「ロラズ アpartment」。遊び心を感じるファッション雑貨やギフトに最適なオーガニックティーツやスキンケアなど、他にない商品を探しに。8月28日(火)～9月25日(火)まで。



菓匠三全
【B2F】

まろやかなカスタードクリームをふんわりカステラで包んだ仙台北産の定番銘菓「萩の月」と、厳選された枝豆を独自ブレンドしたずんだ餡とコシと粘りのある餅米やコガネ使用の「ずんだ餅」がGINZA SIX初登場。9月4日(火)～10月7日(日)まで。

Co-Creation

互いに手を取り合って

開業から1年半、ここにきて店同士のコラボレーションも活発なGINZA SIX
注目の2例を通して見るその現在地

2人のクリエイティビティが共鳴した一夜の宴

去る7月28日、13F「ロムデュタン シニエ ア・ニュ」で、同じフロアに位置する「ミクソロジー サロン」とのペアリングディナーのイベントが開催された。この夜、バーテンダーの伊藤学さんがゲストの前で創り出すお茶を使ったカクテルと、簀原祐一シェフが編み出す夏らしき満載の料理との競演を味わえたのは、わずか12名。当夜の様子を紹介しよう。「伊藤さんに出会えたことがGINZA SIXの店に入っていちばんの収穫です」と語る簀原シェフ。“お向かいさん”である『ミクソロジー サロン』には、開店当初から毎日のように通っているというだけに、今回の企画は非常にスムーズに進んだという。伊藤さんも「お茶のカクテルとフルボーションの料理は、未体験の境地。日頃コミュニケーションを取っている簀原シェフとだからこそ、なしたことです。しっかり意見を出し合っ

て、いい意味で肩の力を抜いて取り組めたのではないかと思います」と話す。「まずはかけつけ一杯」と、卵白の泡と金箔があしらわれた玄米茶ベースの拼入りカクテルで始まったコースは、料理とデセールが全5皿、カクテルはメニューに記載のなかった、お口直しの“シークレット”を含めて実に7種類が登場。鮎の料理には、清冽な水流を思わせる「氷出し宇治玉露&煎茶フィズ」を。「お茶と相性が良い」というスコットランド産のブルーオマールにフォアグラのテリーヌやエキゾチックな香りのパンデビスのパウダーを添えた一皿には、濃厚な甘やかさとのどごしが斬新な「梨山烏龍ウォッカ 桃 ボールジローパラディ」など、いずれも料理とカクテルがイブンの関係。二重奏を思わせる調和がゲストを魅了した会は、今後バージョンアップしての第2回開催も期待したい。



鮎 肝 ヘーゼルナッツ ×
1 低温抽出玉露 アイラウイスキー

オペラ 煎茶 マンゴー ×
2 抹茶 ラム エルダーフラワー

L'homme du Temps signé à nu 【13F】



スタイリッシュなフレンチとして知られる広尾『ア・ニュ ルトゥルヴェ・ヴー』のDNAを受け継いだ兄弟店。簀原祐一シェフのフレッシュな感性が紡ぎ出す、「時」と「人」から生まれる一瞬のきらめきを閉じこめたフランス料理をいただける。昼夜共に、旬の素材を取り入れたおまかせのコースメニューを提供。

and



ミクソロジーカクテルの第一人者・南雲主于三さんが手がける最新店は、「和」と「茶」を融合させた「Teatall (お茶のカクテル)」を提案。マスターバーテンダーの伊藤学さんはバーに関する著書もあるベテランだけに、スタンダードカクテルへの深い造詣をもとに遠心分離機、減圧蒸留、真空調理などの技術を駆使する。

Mixology Salon 【13F】

まるでアート作品のようなバッグの展覧会

根底に不動のスタイルがあるからこそ、のびのびと発想を膨らませることができ。それは、2014年にスタートしたフェンディの「ピーカブー プロジェクト」を見ていて感じることだ。本プロジェクトは、各国の影響力を持つ人物たちがフェンディのアイコンバッグ「ピーカブー」をカスタマイズし、その一点物をオークションで販売、収益はチャリティ団体に寄付するというもの。誕生して10年になる「ピーカブー」の姿の中に、エレガントな「不動のスタイル」はある。ただこのバッグ、フロントのツイストロックを外して中のデザインを露わにすることもでき、時折おどけたような表情も見せてくれる。それは、プロジェクト参加者の想像力を掻き立ててきた部分だろう。さて、今年は「ジャパン ピーカブー

プロジェクト」と題し、類まれな才能を代々受け継いでいる日本人女性、森星、安藤桃子、ゆう姫がその任を担うことになった。完成した世界にひとつずつの「ピーカブー」は、もはやアート作品。オープン時よりいつか一緒に何かできれば、と関係を深めていたアートに強い「銀座 蔦屋書店」内のGINZA ATRIUMで実物が展示されることになったのは自然な流れだろう。9月11日～24日に開催されるこの「フェンディ ピーカブー～世代を超えて受け継がれるアイコン～」展では過去のプロジェクトでミュージシャンのアデルやモデルのカーラ・デルヴァーニューなどが製作したバッグ6点も展示されるほか、体験コーナーやワークショップも併設。3名が手がけたバッグのオークションは同期間に開催される。



上：GINZA SIXのフェンディでは期間中に限定デザインを販売。左からバッグ“SELLERIA PEEKABOO”〈高さ26×幅33×マチ12cm〉¥516,000・“SELLERIA MINI PEEKABOO”〈高さ18×幅23×マチ11cm〉¥453,000／フェンディ【B1F～3F】左：過去の企画で製作されたバッグ。

FENDI 【B1F-3F】



国内最大級の規模を誇り、全てのカテゴリーが揃う。コンセプトはフェンディ誕生の地、ローマ。アーチ型のファサードは本社を置くローマのモダニズム建築「イタリヤ文明宮」をイメージしている。フラワーアーティスト、東信が手がけたオブジェ「ファーツリー」やフロアごとに異なる内装デザインも見どころ。

and



GINZA TSUTAYA BOOKS 【6F】

コンセプトは「アートがある生活の提案」。アート関係の書籍が充実しており、ギャラリーも併設している。本展が行われるGINZA ATRIUMは高さ6mの書棚に囲まれたイベントスペース。「アートや日本文化を全身で体感できる場」として作られ、これまでもアーティストの展覧会やブランドの紹介などを行っている。

The Japan Peekaboo Project



森星



デザイナー森英恵を祖母に持ち、姉の泉と共にモデルとして活躍する森星は、「これまで見て感じたものや、家族が美しいと思って大事にしてきた身近な素材や色、形」を用いた。「ミニ ピーカブー」のライニングを赤いクロコダイルレザー、ストラップはミンクファーに。日本の花々の刺繍も施した。



安藤桃子



エッセイスト安藤和津を母に、女優安藤サクラを妹に持つ映画監督の安藤桃子は、「命への感謝、森羅万象」を表現。ミニサイズを選択し、日本三大和紙のひとつ「浜田和紙」を薄いガラスにはさんで本体に使用した。ハンドルはニホンジカの角。「F」のチャームはライトにもなり、和紙の透け感を楽しめる。



ゆう姫 (YJY)



俳優松田優作・女優松田美由紀の間に生まれたシンガーのゆう姫にとって、家族とは「空気のように自然体で、密接であり、なくてはならない存在」。「母と娘」をテーマにイラストを描き、レギュラーサイズのフロントに刺繍した。ライニングにはミンクファー、メタルパーツにはシルバーを用いている。

For Him and Her

たまにはパートナーと

銀座最大級の商業施設GINZA SIXは、広さを活かしメンズとウィメンズの複合店も充実
ブランドの世界観を堪能できる店内で、二人の秋のショッピングをゆったりと

KENZO

大胆な柄を身にまとう
グラマラスなコレクション

1. 1980年代に誕生した「ジャンピング・タイガー」柄が復活。取り外し可能なクロスボディで使い勝手も抜群。バッグ WOMENS 〈高さ15.5×幅21×マチ9.5cm〉¥55,080 2. オリエンタルな香り漂うインドネシアン・フラワー柄がラグジュアリーな印象に仕上げてくれる。コート WOMENS ¥125,280 3. 大人も着こなしやすいシックな配色のチェック柄ブルゾン。MENS ¥74,520／ケンゾー [3F]



Barbour

ライフスタイルに寄り添う
ブリティッシュウェア

4. ベストセラーのキルティングジャケットがウールツイード素材で登場。コート WOMENS ¥44,280 (パプアー) 5. カントリースタイルに欠かせないフエアイル柄のニット。MENS ¥24,840 (パプアー×ハーレー) 6. 英国の老舗シューズブランド「ウォルシュ」とのコラボレーションモデル。シンプルなフォルムにクレープソールで個性を。スニーカー MENS 〈ソール2cm〉¥24,840 (パプアー×ウォルシュ)／パプアー [5F]



Neil Barrett

オーセンティックに愛される
ミニマルな世界観

7. ナイロン素材の迷彩ボディ×牛革のコンビネーションがモダンな仕上がり。バックパック MENS 〈高さ49×幅31×マチ13cm〉¥111,240 8. コンパクトなサイズ感と広めのネックで、女性らしく着こなせる一着。Tシャツ WOMENS ¥48,600 9. アイコニックなサンダーボルトル柄が放射線状に。張りのあるネオプレーン素材は型崩れせず、軽く暖かい。パーカ MENS ¥88,560／ニール バレット [3F]



BRITISH MADE / Drake's

こだわりの英国ブランドに
出合えるショップ

10. 美しいカッティングとポリッシュドレザーにため息。シューズ WOMENS 〈ヒール3cm〉¥66,960 ※9月発売予定 (ジョセフ チェーニー) 11. 軽量素材を使いインナーにも便利な「バーハム」。ジャケット MENS ¥35,640 (ラベンハム) 12. 使い込むほどに色の変化が。レザーバッグは全11色。クラッチバッグ UNISEX 〈高さ26×幅35×マチ4cm〉各¥56,160 (グレンロイヤル)／ブリティッシュメイド／ドレイクス [5F]



rag & bone

毎日着たくなる
さりげない今っぽさ

13. 今季のテーマカラー、ライラックが足元を華やかに彩ってくれる。ラムレザー×スエードの組み合わせも新鮮。ショートブーツ WOMENS 〈ヒール 7cm〉¥79,920 14. ブロックチェック×無地のリバーシブルで楽しめるコート。WOMENS ¥122,040 15. カジュアルになり過ぎない細身のシルエット、プレイフルなカラーブロックキングが冴えるストライプシャツ。MENS ¥42,120／ラグ アンド ボーン [3F]



JOSEPH

ファッショナブルに楽しめる
スポーツラインに注目

16. 撥水性、透湿性、防風性を兼ね備えた3層構造のアウトター。しなやかなストレッチ素材で着心地も抜群。ジャケット MENS ¥44,280 17. スポーツシーンのみならずタウンでも活躍するモードなデザイン。ソフトな風合いと優れた速乾性、UVカット効果も見逃せない。トップス WOMENS ¥16,200 18. ブランドの頭文字「J」がグラフィカルに配されたレギンス。UNISEX ¥10,800 (ジョセフ スポーツ)／ジョセフ [5F]





数寄屋橋交差点で



12時のGINZA SIXビストロオザミ



GINZA SIXビストロオザミの窓側



アスタープラザビルと丸源第24ビルの間



カフェ・ド・ルトンの右奥の席

Feature Story _ 3

The Little Things

美しい日々

左ページ：彩りあるスーツには、エレガントな柄タイを。洗いかかった無骨なジャケットには、ペインティングの施されたシャツを。そんなイマジネーティブなスタイルが秋の銀座に似合う。左：ジャケット ¥70,200・シャツ ¥32,400／ポール・スミス 【4F】・ネクタイ ¥34,560（アット ヴァンスッチ）／ドレステリア 【4F】・ポケットチーフ ¥4,860／フリーマンズ スポーツینگ クラブ 【5F】 右：ブルゾン ¥126,360／ベルスタッフ 【3F】・シャツ ¥30,240（ユニフォーム・エクスベリメント）／ソフ 【5F】・ネクタイ ¥16,200／フリーマンズ スポーツینگ クラブ 【5F】

右ページ：シックな色を主役にするときこそ、遊び心を忘れない。装い慣れた大人の、品のある華やかさとはこういうこと。左上：ジャケット ¥86,400／ポール・スミス 【4F】・シャツ ¥35,640（ターンブル&アッサー）／ヴァルカナイズ・ロンドン 【4F】・ネクタイ ¥32,400（アット ヴァンスッチ）／ドレステリア 【4F】 右上：ジャケット ¥49,680・メガネ ¥43,200（ユニフォーム・エクスベリメント）／ソフ 【5F】・ニット ¥25,920／フリーマンズ スポーツینگ クラブ 【5F】 左下：コート ¥64,800（エヌハリウッド）／エヌハリウッド 【5F】・ベスト ¥17,280／ドレステリア 【4F】・シャツ ¥25,920／ポール・スミス 【4F】・ポケットに入れたメガネ ¥42,120／フォーナインズ 【5F】 右下(右)：ニット ¥21,600／ポール・スミス 【4F】 右下(左)：ジャケット ¥36,720／フリーマンズ スポーツینگ クラブ 【5F】・シャツ ¥35,640／ベルスタッフ 【3F】・ネクタイ ¥17,280／ポール・スミス 【4F】・ポケットチーフはスタイリスト私物



レカンレッド（銀座レカンBar roomの絨毯）

名店でのディナーに、然るべき足元を。スリッポンは細身のラストが上品で、ショートブーツは角度で色味が変わる光沢感がいい。右の一足はソールのボリューム感が現代的。 左：シューズ ¥57,240（ソフネット）・パンツ ¥30,240（ユニフォーム・エクスペリメント）／ソフ 【5F】・ソックス ¥2,160／ボール・スミス 【4F】 中：シューズ ¥97,200・パンツ ¥34,560／ボール・スミス 【4F】 右：シューズ ¥78,300／ベルスタッフ 【3F】・パンツ ¥29,160／マッキントッシュ 【3F】



奥野ビル1Fの踊り場の小窓

左ページ：1885年創業の英国王室御用達ブランド「ターンブル&アッサー」。そのクラシックなボウタイで訪れた画廊は、1932年施行の銀座「奥野ビル」の一室。ジャケット ¥54,000・シャツ ¥14,040／ドレステリア 【4F】・ボウタイ ¥13,500（ターンブル&アッサー）／ヴァルカナイズ・ロンドン 【4F】・ポケットチーフはスタイリスト私物
 右ページ：手前のマッキントッシュのデニムコート、その隣のバンドカラーシャツのスーチング、奥のチャイナシャツ調の刺繍入りニット、すべてに共通するのは伝統的モチーフの引用。上質な仕立てが、その刷新を小粋に見せる。上：ニット ¥45,360／ディーゼル ブラック ゴールド 【3F】・中に着たニット ¥23,760／ポール・スミス 【4F】中：ジャケット ¥71,280・シャツ ¥16,200（バイオレット バッファロー ワロウス）／ドレステリア 【4F】・ポケットチーフはスタイリスト私物 下：コート ¥96,120／マッキントッシュ 【3F】・シャツ ¥24,840（ユニフォーム・エクスペリメント）／ソフ 【5F】

1946年創業のミタケボタン





GINZA SIX 13Fの南側の通路



銀座歌舞伎座、東側



GINZA SIX 13F、西側、18時



銀の塔のビーフシチュー



カフェ・ド・ルトンのバナナクレープ



中央通りをGINZA SIXに向かう道のどこか



GINZA SIX 6F,TEPPANYAKI 10



銀座歌舞伎座を出て



GINZA SIX 13F、ベンチ



奥野ビルの灯り



中央通りとみゆき通りの交差点



GINZA SIX 6F, Salt grill & tapas bar前

People Diagram



Born in Paris,
raised in Ginza

Guillaume

Job : movie director
childhood dream : actor
favorite dinner : beefstew



Guillaume's
childhood friend

Adolfo

place of birth : Ginza Ichome
speciality : The sights of Ginza
favorite place : cafe de Le Temps



Their mutual friend
from England

Henry G

personality : shy
favorite item : black jacket
Hobbies : walking in sunset

左ページ：レザーウォレットは光沢を抑えたシルバーがエレガント。ヴィンテージ調の眼鏡はメタルのフレームが繊細な印象。ボディバッグの設計はポーターで、生地はマッキントッシュのコットンギャバジンを使用。その右隣の精巧なゴールドのネックレスは、チャームを自由に選べるのが楽しい。 左上：ウォレット ¥36,720（エヌハリウッド コンパイル × ポーター）／エヌハリウッド 【5F】 右上：メガネ ¥42,120／フォーナインズ 【5F】・ジャケット ¥73,440／ディーゼル ブラック ゴールド 【3F】 左下：ウエストポーチ ¥42,120（マッキントッシュ × ポーター）／マッキントッシュ 【3F】 右下：ペンダントトップ“6” ¥151,200・ペンダントトップ“クロス” ¥405,000・ネックレスチェーン ¥410,400／アイファニー 【2F】・ベスト ¥17,280・シャツ ¥15,120／ドレステリア 【4F】・ネクタイ ¥12,960／ポール・スミス 【4F】 右ページ：カーキのカーディガンは薄手で柔らかく、初秋の羽織に最適。その隣のベージュのリブニットは全体に締め付けがないミニマルなシルエットがいい。右下のイエローのカシミアニットは極上の着心地とユニークな世界観を堪能できる。 左中：カーディガン ¥17,280（パイオレット パップアロー フロウズ）／ドレステリア 【4F】・パーカ ¥15,984／ディーゼル ブラック ゴールド 【3F】・パンツ ¥34,560（エヌハリウッド）／エヌハリウッド 【5F】 右中：ニット ¥25,920／フリーマンズ スポーツイングクラブ 【5F】 右下：ニット ¥464,400／ルシアン ベラフィネ 【3F】



*The Little Things
beautiful days*

Autumn Appetite

食べる秋休み

胃袋だけでなく心まで満たされるGINZA SIXの一皿を
銀座のグルメにも精通した4雑誌がスペシャルナビゲート

GRAND CRU CAFÉ GINZA 【13F】

ワインのようにコーヒーにも“至高”を求める大人が集うサロン。コーヒーハンターの川島良彰が全世界の農園から選りすぐった19銘柄が揃う。1本のボトルで最大6杯のコーヒーを抽出。最良の環境で保管された豆は、知識豊富なエバンジェリストによって芳醇なアロマと鮮烈な風味を表現した珠玉の一杯となり、オールドノリタケのカップで提供される。ボトルは¥10,800〜、新鮮味を保つためキープ期間は開封から2週間。



about the magazine :

オンもオフも全力で楽しむ“常態体質”な経営者やビジネスパーソンから支持を集める。毎年恒例のレストラン特集“ゲーティスト”に代表されるグルメ記事にも注力。いま銀座で接待なら個室で贅を尽くした肉尽くしの“GINZA限定コース”を堪能できる「USHIGORO S Ginza」。



il Cardinale 【6F】

メニュー豊富なイタリアの郷土料理の中で、肉好きを魅了しているのがフィレンツェ名物のステキこと“ビステッカ・アッラ・フィオレンティーナ”。900度で火を入れ、肉汁をとじこめながら焼き上げる「ブラックアンガス牛の高温グリル」（¥1,080/100g〜 ※800gからオーダー可）は、やわらかなヒレと、適度にサシの入ったサーロインを同時に味わうことができる一皿。“食欲の秋”だからこそ、心のままにほとばしる旨みを堪能したい。



about the magazine :

1955年に日本で初めてのタウン誌として創刊。銀座の情報だけでなく、文化まで感じ取れる誌面は読みごたえ十分。著名人のエッセイなどここでしか読めない記事が贅沢。銀座のグルメ、近年は銀座ハゲ天の新業態「天井・らぁ麺 ハゲ天」のような老舗の新たな挑戦に着目。

JASMINE 和心漢菜 【6F】

点心や一品料理、麵飯類からデザートまで、45種前後のメニューを用意したランチ限定「オーダーバイキング」。大人数はもちろん、90分の時間内なら、一人前からオーダー可。常駐する一級点心師による本場の味をベースに、店のテーマでもある“和と中華”を融合させたオリジナル点心（¥3,500〜 ※小学生以下は¥2,000〜。90分制でL.O.は30分前）は、「できるだけたくさんメニューを」と薄味に仕上げた心配りも心に染みる。



about the magazine :

食、旅、街など、アクティブに人生を楽しむ女性に向けたシティライフスタイルマガジン。創刊30周年の節目を迎え、今年10月から誌面をさらにパワーアップ。銀座エリアでは旬の果物を使った季節限定パフェが毎回楽しみな「BISTRO MARX」にも注目。



PHILIPPE CONTICINI 【B2F】

革新的なスイーツを打ち出し続けるパティスリー界の巨匠フィリップ・コンティチーニが国外初出店。名物はクイニーアマンとタルトタンを融合させた「クイニータンのキャラメルアイス添え」（¥1,836 ※イートインカウンターのみで提供）。綿あめを纏ったビジュアルもさることながら、その味わいも濃密で緻密。生地をカットすると、中からはろ苦いキャラメルアイスが。林檎とグレープフルーツのマリネに絡めて甘美な時間を。



about the magazine :

「Eating with creativity（創造的に作り、創造的に食べる）」をキャッチフレーズに、国内外の食トレンドや作り手の想いを届けるフードマガジン。9月号の「夏の酒とつまみ」特集では、海外から評判を聞きつけた客も通う銀座のバー「bar cacoi」が登場。

Friendly Faces

彼らに会いたくて

GINZA SIXは銀座の街に佇むひとつの商店街
その名物スタッフと秋のイチ押しを人気のフードフロアから

WINE SHOP ENOTECA 【B2F】

エノテカ最大級、1,600以上の品揃えを誇るセラーに向かう通路に位置するカフェ&バーは、朝から夜まで、ワンコイン（¥500）からグラスワインを楽しむ人に人気のスポット。ここで毎週入れ替わる約15種のワインをセレクトするのがソムリエの赤坂宜映さん。この秋に味わってほしいと話すのはコート・ド・プロヴァンスのロゼワイン「BY.OTT（バイ、オット）」。「白ワインより飲みごたえがあり、赤ワインほど飲み疲れしない、見事なロゼです」。



about her :

赤坂さんは大学時代にパリに1年留学。卒業後、航空会社に就職し客室乗務員として活躍するが、ワイン好きが高じてGINZA SIX開業と同時に転身し、エノテカに入社。いわく「エノテカが仕入れているワインはセクションがとにかく幅広いので、本当に勉強になります」。



10FACTORY GINZA 【B2F】

常時5〜10種類のみかんジュース、ゼリー、ジャム、ドライフルーツなど、産地から直接仕入れた素材でオリジナル商品を提案。高齢化・後継問題が深刻な愛媛の産業みかんを次世代につなげたいとする「テンファクトリー」。店長の嶋田知津さん(左)と副店長の早稲田知佳さん(右)のお薦めは、季節限定「みかん大福」(¥540)。愛媛の老舗「宮川菓子店舗」とのコラボレーションによる、越冬完熟みかんを大福に封じ込めた瑞々しい味わいはやみつきに！



about them :

「別の店で接客をしていましたが、テンファクトリーの存在を知り、少しでもお手伝いできたらと転職しました」と話す嶋田さんに対し、早稲田さんはまさに愛媛のみかん農家が実家。「店頭カウンターで出しているみかんビールのみかんアイスもぜひ！」とは早稲田さん。

くろぎ 茶々 【B2F】

京都の老舗茶舗「福寿園」と、日本一予約が取りにくい日本料理店「くろぎ」がコラボレートした店。厳選された宇治茶をベースに和を追求した料理やお菓子を販売。着物姿で店頭に立つ女将の小嶋由紀子さんは、その精神を伝える。「日本人が遠くから眺め愛でてきた四季の山の風景を棹菓子でお作りした『とおやま』。9月中旬までは宇治抹茶と檸檬ビール入りの生地で巻いたロールケーキ『とおやま 夏』(¥3,780)を販売中です」。



about her :

大学卒業後、東京のホテルに就職した小嶋さん。京都勤務を経て新たな挑戦の場を求め再び東京へ、GINZA SIX開業より今店の女将に。秋以降は東京・芝の本店「くろぎ」にも勤務。「本店でも出していない、GINZA SIX店のイートイン 限定の鯛茶漬けセットもご堪能を」。



発酵酢屋 庄分酢 【B2F】

福岡・大川市で306年間、変わらぬ静置発酵農法で酢作りを行なう庄分酢が、プレミアムなお酢や自慢のくろ酢で仕上げたお惣菜などを揃えた酢ブランドとして初出店したのがGINZA SIX。酢飯にこだわった南蛮いなりなど企画力豊かな各種商品群の中でも、秋限定「飲む酢 白ぶどう」(¥2,052)は昨年即完売した人気商品。店長の樽井澄子さんと庄分酢14代目当主の次男・高橋宏樹さんらが店頭でサービスする試食コーナーも心温まる場所。



about them :

飲食店での店長ふりを買われてGINZA SIX店を率いるに至った樽井さんは、自然体の接客でリピーターを獲得中。一方、高橋さんは「福岡の酢蔵の雰囲気と、職人たちが昔ながらの製法で手作りを続けている伝統を、ここ銀座で少しでも伝えたいと思っています」と語る。

Solo

ひとりが切り拓く力

世界から切り出せる景色の数は、自分が積み重ねた時間の数だけ増えていく
この秋、作家生活20周年記念作品を刊行する吉田修一さんが挑んだものとは？

Shuichi Yoshida

吉田修一

銀座は街自体が歌舞伎座の持つ華やかな気配に通じる



1968年長崎県生まれ。97年に『最後の息子』で文芸界新人賞を受賞し作家デビュー。2002年に『パレード』で山本周五郎賞、同年『パーク・ライフ』で芥川賞を受賞。07年に『悪人』で毎日出版文化賞と大佛次郎賞を、10年に『横道世之介』で柴田錬三郎賞を受賞。写真は屋上のGINZA SIX ガーデンにて。

純文学と大衆文学。そんなジャンルの垣根などやすやすと飛び越え、常に日本の小説を牽引し続けてきた吉田修一。その作家生活20周年の節目に挑んだ題材は、じつに400年以上の歴史を誇る日本の伝統芸能——銀座の街ともつながりの深い「歌舞伎」の世界だ。

新刊『国宝』は、任侠一門に生まれたものの、数奇にも歌舞伎役者の道を歩んでいく美貌の男・喜久雄が主人公。1960年代の半ばに端を発し、舞台・映画・テレビと芸能界の転換期を駆け抜けながら、道を究めんとものがく者たちの生き様が壮大なスケールで描きつけられている。

「今回の作品は、ちょっと大袈裟に言うと“一流とは何か”というテーマについて考えながら書いていました」。その間、ずっと頭にあったのは溝口健二監督の映画『残菊物語』。歌舞伎役者・二代目尾上菊之助の悲恋を描いた戦前の名作だ。その劇中劇を最初に観たとき、比喩でなく鳥肌がたったという。「脚本、役者、踊り……すべてが見事に揃っていた。あのとき確かに観た“一流”の姿を、自分でも探してみたいと思ったんです」。

とはいえ自身にとっては全く縁のなかった世界。取材にはみっちり時間をかけた。おびただしい数の参考文献や映像資料に加え、最大の示唆を与えてくれたのは、文字どおりの「現場体験」だ。いちばん近くで舞台の空気を感じられるよう、なんと四代目・中村雁治郎が吉田用の黒衣の衣装を作ってくれたのだという。

「歌舞伎座はもちろん、大阪松竹座、博多座から、京都は丹後の永楽館まで、全国の大小の劇場を3年かけて回りました。お弟子さんたちと一緒に舞台裏を走り回って、早替わりなんかも目の前で見せてもらって……。普通、花道の床下なんて通る機会ないですからね。ものすごく贅沢な経験です。“歌舞伎を描いた小説家はもちろん他にもいるし、その中には歌舞伎に関わり合いがあった人もいるけれど、黒衣として舞台に混ざり込んだ小説家は吉田さんだけだ”って後で出版社の方に言われました（笑）」。

実際に触れてみて感じたのは、歌舞伎の演目というものが「観れば観るほどエンターテインメント」であるということ。とところが馴染みのない人間にとっては、どこか堅苦しい、格式ばった印象がつきまとう。「そうしたイメージの垣根を取り払うための工夫は意識的に施しました」。そのひとつが物語の構造だ。鮮烈な刃傷沙汰で幕を開けた後、切磋琢磨する少年たちの爽やかな友情が続いたかと思えば、血族の因縁がもたらすスキャンダラスな事件が待ち受ける。任侠モノから青春物語、はたまたラブコメにピカレスクロマンと、多種多様な物語の味わいを詰め込んだ欲張りなストーリー展開は「実はなんでもありの世界」である歌舞伎の面白さを意識したものだという。

ふたつ目の工夫は「～でございます」といった独特の語り口だ。「芸の道というのは、やっぱり読者の日常とは異質な部分があると思うんです。そういう別世界に自然と招き入れるには、歌舞伎を象徴するようなこの文体がしっくりくるなと思って」。結果、語り手がまるで舞台上のガイドのような役割を果たしたことで、知識が全くない者でも歌舞伎の世界を存分に愉しめる作品に仕上がった。

なにより魅力的なのは、作中に登場する数々の演目が喜久雄たち自身のドラマと重なっていく過程だろう。繊細なパズルを緻密に組み上げていくような読み味だが、吉田自身は意外にも「プロットはいつもほとんど決めずに書き出す」らしい。「意図せずパチパチッと嵌まるときもある。正直、全く手応えのないときもある。今作は前者。演目が持つ“声”と喜久雄たちのそれが響き合いながら、自然と引き寄せられた感じです」。

舞台は故郷・長崎から、大阪、そして東京へ。それぞれの土地の言葉に染まるのと同時に、生き方も少しずつ変えていく喜久雄の姿は、街と人が結び合う関係の象徴でもある。デビュー以来、まさにそうした情景を描き続けてきた作家の目に、新しくなった歌舞伎座を抱く現在の銀座の街はどう映っているのだろう。「やっぱりハレの街ですよ。銀座に行くっていう日はちょっと心が華やかになるでしょ？ そういう意味では街自体が歌舞伎の持つ華やかな気配に通ずるし、実際に中に入ってしまうと、こちらの気負いなんて関係なくおおらかに受けとめてくれる懐の深さがある点も似ているんじゃないかな、と」。



『国宝』 吉田修一

かつて長崎で名を馳せた任侠の一門に生まれつきながら、自らの美貌に導かれるように歌舞伎役者の道を歩むことになった主人公・喜久雄。その壮絶な一代記を軸に日本の芸能の五十年をドラマティックに振り返る。作家生活20周年を飾る新たな傑作にして金字塔。上下巻（各¥1,620）が9月7日（金）に朝日新聞出版より発売。

Books on Classical Japanese Arts and Ginza

他にも歌舞伎をはじめ各種古典芸能と銀座を学ぶ本を6F「葛屋 銀座書店」のコンシェルジュがセレクト

『KABUKI BY KISHIN』 篠山紀信
（¥49,680 光村推古書院）

他に類を見ない優れたアーカイブでありながらも、篠山紀信の芸術作品としても傑出した大判写真集。大きな紙面を飾る名優たちの姿、歌舞伎という伝統芸能の軌跡、ページをめくるとその舞台の瞬間が色鮮やかに蘇る。プロマイドや雑誌では感じる事ができない圧倒的な臨場感あり。



『東京時代MAP—大江戸編』
（¥756 光村推古書院）

歴史地図の上に無色透明の現代地図を重ねて古今の街を同時に見るといった誰も思いつかなかった発想に、目から鱗が落ちる地図帳。時代小説のお供に、歴史探訪のガイドとしても、役立つこと間違いなし。なお、この大江戸編以外に『京都時代MAP—幕末・維新編』などシリーズも充実。



『面からたどる能楽百一番』 三浦裕子
（¥2,484 淡交社）

能楽に関する優れた初心者向けの演目解説書は数あれど、演目解説を面という視点でまとめることで、読者の理解をさらに深いところへ導いた本。能楽を知らない人をも惹きつける神秘的な力を持つ面の意味を理解することは、その世界の深遠を覗く第一歩に。



『現代落語論』 立川談志
（¥1,080 三一書房）

1965年当時、落語界の風雲児だった故立川談志師匠が世に問うた問題作。提起されている「現代落語はどうあるべきか」という問いはけて色褪せることなく、本書のおかげで観客は、今なおその問題と格闘する師匠たちの熱演を楽しむことができる。ファンならずとも必読の落語論。



GINZA SIX info

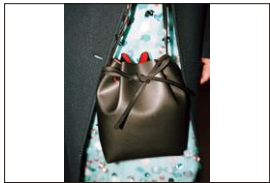
Shop News



SPLENDORS
スプレンドーズ

8月24日(金)OPEN
【5F】

大切な人たちと過ごすかけがえのないリラックスしたひとときや、自分だけで過ごす特別な時間と空間を楽しむために纏うアイテムを提案。“遊び心を持つ余裕のある本物志向の大人男女”に向けた、ひねりのあるオーセンティックなブランドをセレクトします。



MANSUR GAVRIEL
マンサー・ガブリエル

9月26日(水)～10月23日(火)
POP-UP 【3F】

ニューヨークを拠点とするブランド「マンサー・ガブリエル」がポップアップで登場。2018年秋冬コレクションの最新アイテムが揃い、レディスウェアとフットウェアのコレクションは日本で今回のPOP-UPのみエクスクルーシブでの展開となります。



MARK&LONA
マーク & ロナ

9月13日(木)OPEN
【5F】

伝統的なスポーツである“ゴルフ”をテーマに、ラグジュアリーでニッチなマーケットに向けた次世代のスポーツウェア・ブランド。アートやストリートなど異なるコンセプトをデザインに取り入れ、ハイテク素材や立体裁断を使用した、高い機能を持ち合わせたラインナップも魅力です。



ALAÏA
アラリア

9月5日(水)～10月2日(火)
SIXIÈME GINZA内 POP-UP 【2F】

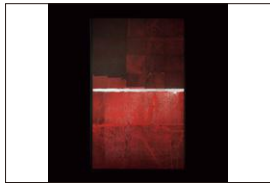
急逝した伝説のクチュリエ アズディン・アラリア。生前、自ら監修していた貴重なポップアップストアでは、代表的なシリーズ「ビエンス」「アラバスク」のレザーアイテムを中心に、シグネチャーでもあるボディコンシャスなニットドレスやスカート、コートまで充実したラインナップを展開します。



Paul Smith
ポール スミス

9月26日(水)～10月23日(火)
POP-UP 【4F】

ポール・スミスが幼い頃よりアマチュアカメラマンの父親とともに親しんできた写真をキーワードに、洋服やグッズを限定で販売。期間中に「銀座 葛屋書店」でポール・スミスと『GQ JAPAN』鈴木編集長のトークイベント（招待制）も開催（詳細は「銀座 葛屋書店」のホームページにアップ）。



裕人礫翔 深遠なる箔 +アートの世界

9月20日(木)～9月26日(水)
Artglorieux GALLERY OF TOKYO 【5F】

金属箔に熱を加えて変色させる独自の技法で色彩を自在に操る、世界を代表する金箔アーティスト・裕人礫翔。伝統工芸士としての技術でアート作品へと昇華された金属箔は、艶やかでありながら厚重な輝きを放ち、見る者を幻想的な世界へ誘います。

GINZA SIX ぶらエディターズ



GINZA SIXの歩き方や楽しみ方を提案する注目のコンテンツ「GINZA SIX ぶらエディターズ」。ファッション(メンズ/レディス)、ウオッチ&ジュエリー、ライフスタイル、ビューティ、フードといった各ジャンルに精通する個性豊かなエディターたちが綴る、GINZA SIXをぶらぶらと歩いて見つけた楽しみ方。公式WEBサイト、Instagram公式アカウントで配信中です。



Instagram公式アカウントは「GINZASIX_OFFICIAL」で検索
#GINZASIX #ぶらエディターズ

GINZA SIX アプリ



持ち歩けば、ショッピングが変わる

多様な機能が詰まったGINZA SIXアプリ。GINZA SIXでのショッピング体験をさらに充実させる機能が満載です。登録費・年会費無料、ぜひダウンロード・登録して、GINZA SIXでのショッピングをお楽しみください。

- お買物時にアプリ揭示で100円(税抜)につき1ポイント付与
- GINZA SIXの最新ニュースや会員限定情報を配信
- G S I X <> antenna TOKYO LIFE
- 館内のショップやサービスをスマートにご案内
- レストラン予約

アプリのダウンロードは右のQRコードから
※iPhoneはiOS9以上、AndroidはAndroid4.1以上が対象



Our Team

ゲストクリエイターとしての GINZA SIX と銀座



Kaori Watanabe

この秋GINZA SIXで買いたいものは？
秋を闊歩するスポーツやアウトドアブランドのアウトター。
銀座はどんな街になっていったほしい？
今時にはなつてほしくない。昔から守ってきた「本物」を田舎者のちっぽけな私に教え続けてくれる街であり続けてほしい。

渡部かおり／エディター。編集プロダクションFW主宰。女性誌やカタログなどの媒体で、ビジュアル作りと執筆に励む。今号では「FEATURE STORY_1」「FEATURE STORY_2」を担当。



Jun Namekata

GINZA SIXで気に入っている部分は？
メンズファッションの信頼できるラインナップ。ハイブランドも含め、必要なものが過不足なく揃っている。
銀座はどんなふうに楽しみたい街？
ふと思い立ってぶらりと行きたい。隅々にまだまだ発見がある。

行方淳／エディター。メンズファッションを軸に雑誌編集、広告制作などを手がける。今号では「FEATURE STORY_3」を担当。
銀座に来ると「かずや」「空也」「たちばな」に立ち寄る和菓子党。



Kiyoe Ozawa

銀座で好きな場所は？
交差点。東京のどの街とも違った人と時間の流れがあるところ。
銀座は自分にとってどんな街？
モダンでありながら歴史を感じ、東京の時代を写している。どこを撮っても銀座になってしまう。

オザワキヨエ／フォトグラファー。作品制作とともにファッションを中心に活動中。今号では「FEATURE STORY_3」でGINZA SIXのメンズファッションと合わせて銀座の街を撮影。



Soichiro Nakatsu

銀座で思い出す場所は？
まだ独身の頃、銀座にあった職場で仕事を終えた深夜に「銀座七丁目花椿通り 椿屋珈琲店本店」へ行き、明け方まで本を読んで始発で帰宅していた時期があった。銀座はそこにいる人々と流れる時間が心地いい場所がある街だと思う。

中津創一郎／アートディレクター。12年間『BRUTUS』のデザイナーを務める。現在『& Premium』アートディレクター。今号の『GINZA SIX magazine』でアートディレクションを担当。

access

電車でお越しのお客様

東京メトロ／銀座線・丸の内線・日比谷線「銀座駅」A2出口より徒歩2分
＊東京メトロ 銀座駅、東銀座駅、都営地下鉄 東銀座駅よりB2Fへは、直結の地下連絡通路をご利用いただけます。

車でお越しのお客様

早朝6時から深夜26時まで営業、銀座エリア最大級の駐車スペースを完備！GINZA SIXへのアクセスはお車でのご利用が便利です。
＊利用時間 300円(税込)/30分
＊GINZA SIX各店舗でのお買上げに応じた割引サービスをご用意しています。

＊掲載商品の価格は全て税込となります。 ＊掲載情報は2018年8月10日時点のものとなります。

GINZA SIX magazine _ AUTUMN 2018

Publisher : GINZA SIX Retail Management Co., Ltd.
Editor in Chief : Yuka Okada (edit81)
Art Director & Title Design : Soichiro Nakatsu (So,Design & Co.)
Designer : Shiho Hayashi

- p.00 Photo : Kazuki Sato (sasaki office)
p.01 Text : Kaoruko Yasuda Photo : Akemi Kurosaka
Edit : Yuka Okada (edit81)
p.02-03 Photos : Kazuki Sato (sasaki office)
Edit & Text : Yuka Okada (edit81)
Editorial Support : Yuuki Michida (Marchingband Company)
p.04-11 Photos : Go Itami Styling : Noriko Sugimoto
Edit & Text : Kaori Watanabe (FW)
p.12-13 Photos : Masahiro Sanbe Styling : Natsuko Kaneko
& Cover Hair : KOTARO for SENSE OF HUMOUR
Makeup : Masayo Tsuda (mod's hair) Model : Sofia (Unknownmodel)
Edit & Text : Kaori Watanabe (FW)
p.18-19 Photos : Mohamed Khalil Edit & Text : Mariko Omura
p.20 Photos : Youichiro Kikuchi Edit & Text : Haruka Koishihara
p.21 Photos : Kazuki Sato (sasaki office) Edit & Text : Itoi Kuriyama
p.22-23 Photos : Asa Sato Styling : Eiji Takahashi (ACUSYU)
Edit & Text : Sakiko Fukuhara (The VOICE)
p.24-31 Photos : Kiyoe Ozawa Styling : Arata Kobayashi(UM)
Hair & Makeup : Yoshikazu Miyamoto (bNm)
Illustration : Kohei Takeda
Models : Nicklas (EXILES), Sene (AVOCADO), Inigo (AVOCADO)
Edit & Text : Jun Namekata (The VOICE), Takako Nagai
p.32 Photos : Kayoko Ueda Edit & Text : Keiko Kodera
p.33 Photos : Akemi Kurosaka
Edit & Text : Yuka Okada (edit81)
p.34-35 Photos : Taka Mayumi / Shuichi Yoshida,
Kazuki Sato (sasaki office) / books
Text : Saori Kuramoto
Edit : Yuka Okada (edit81)

English copy by RendezVous Co., Ltd.
Printed by Koho Co., Ltd.

Cover :
GINZA SIXの「フェンディ ギンザ」にて。ケープドレス ¥390,960・ブーツ〈ヒール10cm〉¥199,800・バッグ“MINI PEEKABOO”〈高さ18×幅23×マチ11cm〉¥489,240／フェンディ【B1F～3F】

information

所在地 : 東京都中央区銀座6-10-1
営業時間 : ショップ・カフェ_10:30～20:30
レストラン_11:00～23:00 ※店舗、施設により異なります。
お問い合わせ: 03-6891-3390
(GINZA SIX総合インフォメーション 受付時間10:30～20:30)

詳しくはGINZA SIX公式WEBサイトをご覧ください。

<https://ginza6.tokyo>





ブライダル コレクション
ヘルレ ソリティア リング
ホワイトゴールド、ダイヤモンド

Van Cleef & Arpels

Haute Joaillerie, place Vendôme since 1906

